

第55回岡山県がん診療連携協議会議事要旨

1 日時 令和6年4月8日(月) 18:00~19:28

2 形態 web会議

3 出席者 62名

4 あいさつ

○開会の挨拶、及び今回から参加する委員の紹介があった。

○川崎医科大学総合医療センターが、4月1日より国指定のがん診療連携拠点病院へ移行した。

5 報告事項

(1) 岡山県

○「第4次岡山県がん対策推進計画」について報告があった。パブリックコメント、がん対策推進協議会を経て3月末に策定しており、県ホームページで公表するとともに各拠点病院等には冊子を配布する予定である。計画概要は前回会議で報告した通りでほぼ変更はない。

○今年度から実施する「アピアランスケア等のがん支援体制強化事業」について報告があった。本事業は、がん治療による外見の変化による苦痛を軽減するため、治療を継続しながら社会生活を送るがん患者を支援する目的で実施する。事業内容としては、アピアランスケアの普及啓発、アピアランスケア相談支援体制整備、アピアランスケア助成事業、オンライン相談支援体制整備の4件を行う。

(2) 事務局・岡山大学病院

○令和5年度各拠点病院等から情報提供があった研修会・講演会について報告があった。引き続き、今後も情報提供いただきたいと依頼があった。

○岡山県がん診療連携協議会HP閲覧統計(R5年度)について報告があった。

- ・R5年度の総閲覧数は15,420件でR4年度とほぼ同数であった。訪問者は9割以上が初回、地域別では約8割が岡山県内となっている。閲覧数の上位は、前回同様「セミナー・講習会(医療関係)」が最も多く、「がん相談支援センター」「地域連携パス」と続く。

(3) 作業部会等

① 地域連携部会

○令和5年度岡山県統一版がん診療連携パスの算定実績(R5.11~R6.3集計分)(R5.4~R6.3集計分)について報告があった。

- ・パス使用実績年間合計では例年同様、倉敷中央病院が102件で最多であった。以下、倉敷成人病センター、岡山大学病院と続く。
- ・岡山県統一版の5大がんの地域連携パス診療手帳について、「乳がん」「肺がん」「大腸がん」に続き昨年度「胃がん」を更新したのでぜひご活用いただきたい。
- ・地域連携パス手帳更新にあたっては各施設の各がん種担当医師とオンライン会議を行いながら進めてきた。今後部会としてどのような活動をすれば地域連携の推進につながっていくのか思案しているところである。各施設から地域連携部会担当の方を指名していただいで議論していけば新たな方向性が見えてくるかとも思っているののでその際にはご協力をお願いしたい。

② がん相談支援部会

○1月29日にweb開催された第53回がん相談支援実務者会議の報告、及び夜のがんカフェとピアサポーター相談開催日について広報があった。

- ・9月のがん征圧月間に県内10館の図書館でパネル展示を行った。
- ・今年度も施設を選定しながら図書館との連携展示を計画している。また新たな広報先として医療福祉系の大学や職能団体を検討している。
- ・2月に労働基準協会の労務管理講習会 倉敷支部と和気支部でがん相談支援センターの広報を行っ

た。

- ・年3回計画していたがん相談員研修は予定通り開催できた。第2回目からは久しぶりに対面開催したところ、参加者からの満足度は高かった。
- ・第21回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会（11月24日）において、2015年から使用している全国統一のPDCAチェックリストのチェック項目について議論して、61項目→16項目にまでスリム化した。今後は国がんから届く全拠点病院を対象としたアンケート形式のチェックリストと、(岡山県の場合は)県内独自で作成しているPDCAとの2本建てで進めていく。
- ・岡山県がんサポートガイド改訂について、拠点病院と一部の推進病院に協力していただき3月に完成した。5000部印刷し、各施設のがん相談支援センターに配布させていただいた。皆様のご協力に感謝したい。岡山県ホームページにはすでに掲載されており、協議会ホームページには近日中に掲載予定である。予算の関係で発行部数が限られているため、必要な方はホームページからダウンロードしていただきたい。
- ・テーマ「PDCA進捗状況」でグループワークを行った。
- ・今年度は「夜のがんカフェ」を7月11日(木)18:30~20:00に対面にて開催する。
- ・県の委託事業で行っているピアサポート活動について、今年度も当院 総合患者支援センター内で月2回の予定で相談会を開催する。

③ 緩和ケア部会

- 3月11日にweb開催された第32回緩和ケア実務者会議、及び令和6年度緩和ケア研修会の開催予定について報告があった。
- ・岡山県から、「第4次岡山県がん対策推進計画」(案)の緩和に関する部分について報告があった。
- ・緩和ケア研修を終了した医師数は令和4年度末で3,200人と、第3次計画の目標である2,500人を超えている。毎年約200名が受講しているため、令和11年度末の目標数値は4,500人と設定されたようである。今後の主な受講者は研修医となるかと思う。
- ・PDCAについて、緩和医療学会が行っている緩和ケアチーム登録を岡山県内の施設のみを集計してベンチマークとして使用している。また、がん拠点病院現況報告の緩和ケアに関する項目を抽出して各施設で自己評価していただいている。
- ・第10回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会(12月8日)の報告を行った。
- ・緩和ケア研修会 令和5年度開催実績、及び令和6年度開催予定(案)について報告した。

④ がん看護部会

- 1月24日にweb開催された第67回がん看護部会、及び1月26日にweb開催された第68回がん看護部会について報告があった。
- ・昨年度から3つのグループに分かれて活動している。
- ・研修グループ：昨年度「がんと生殖医療」をテーマにがん看護レベルアップセミナーを開催したところ、県下全域から70名の参加があり好評であった。今後は担当を持ち回りで行う予定にしているため、担当する施設がうまくできるよう企画・運営の手順書を作成している。
- ・教育グループ：岡山県共通スライド(7分野)の見直しを行っており、ほぼ最終段階に入っている。
- ・質評価グループ：「岡山県のがん看護の現状と課題の把握」を目的として県内の拠点病院以外の医療機関や訪問看護ステーション等に、がん看護に対する課題や研修ニーズについてアンケート調査を実施することを計画している。アンケートが完成したため、リーダー施設の倉敷中央病院 倫理審査会にて内容の審査を行っている。
- ・3月22日に第69回部会を開催し、各グループに活動報告をしていただいた。今年度も年6回の部会開催を予定しており、内2回は対面で計画している。年1回のセミナーは認知症患者等意思決定支援が難しい方への対応をテーマとして開催予定である。アンケートは倫理審査会を通ったので今年度実施する。

⑤ 研修教育部会

- 3月4日にweb開催された第26回研修教育部会、及び2023年度オンライン研修の結果について報告があった。
- ・年1回開催している研修会について、2月7日(水)19:00~20:00オンラインで開催した。テーマは「拠点病院におけるICI合併症対策 一地域連携の観点から」とし、倉敷中央病院 仁科

先生、金田病院 海野先生、岡山大学病院 楨本先生に各施設の取組みについて紹介していただきその後ディスカッションを行った。参加人数は約60名、終了後のアンケート回答は31名であった。満足度については非常に高い評価をいただいた。免疫チェックポイント阻害剤の副作用対策はこの施設も苦勞されているようで、「他施設の話が聞けて良かった」という意見が多数寄せられた一方、地域連携まで持っていくのはどの施設でも苦勞しているということで今後の課題と考える。

○引き続き、令和5年度各部会での研修会開催状況、及び各施設での令和5年度下半期市民公開講座開催状況について報告があった。

⑥ がん登録部会

○3月11日にweb開催された第20回がん登録部会について報告があった。

- ・岡山県医療推進課より、院内がん登録患者にかかる生存確認調査の実施について報告があった。
- ・がん登録部会メール審議に関する内規を作成した。
- ・がん登録データの活用について議論した。第4期がん対策基本計画にも「がん登録データの活用」と盛り込まれている。ホームページを患者向けに分かりやすくする案や、岡山県がん診療連携協議会ホームページに掲載されているがん登録データを患者向けに構成して公表してはどうか等の案が出され、まずできそうなものから取り組むこととした。
- ・「岡山県院内がん登録報告書」にがん相談支援センターのURLを掲載する方向で動いている。
- ・協議会ホームページに院内がん登録全国集計のURLを掲載することも検討している。
- ・5大がん以外のがん種についてもコメントをつけるなどして市民目線で掲載する案を検討している。

⑦ がん薬剤師部会

○2月17日にwebにて開催された第1回症例検討会について報告があった。今までは座学中心であったが、今回初めて病薬連携を意識した内容で保険薬局薬剤師と病院薬剤師それぞれに症例を提供していただきグループディスカッションを行った。参加者は14名（内 保険薬局6名）で、スタッフも合わせて合計27名で開催した。アンケートの総合評価で全員が「とても良い」又は「良い」と回答した。自由記述で「各グループで出た意見やアイデアを共有してほしい」という意見があったため、後日参加者に共有した。近日中に部会を開催し、今年度の研修計画を立てたいと考えている。

⑧ 歯科部会

○1月10日に対面で開催した第6回歯科部会について報告があった。今年度から、岡山大学主催の「中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム 第15回歯科・口腔外科 Focused Seminar」の後に開催することとした。

- ・岡山市のがん対策のホームページに「口腔ケアとがん治療について」という項目を作っていただいたことを紹介した。
- ・歯科部会を支える組織として、岡山県病院歯科医会の歯科医師にご賛同いただけたので、医科歯科連携を強力に推進していく体制を整備した。
- ・岡山県から「がん患者を対象とした地域歯科保健医療の実態調査及び基盤整備事業」が委託された。3月4日にキックオフシンポジウムを開催した。

⑨ がんゲノム医療部会

○配布資料に基づき報告があった。

- ・昨年度、がんゲノム医療中核拠点病院 人材育成セミナー、オンライン座談会を計8回開催した。また、岡山臨床遺伝カンファレンスは5回開催した。
- ・令和5年度厚生労働科学研究費に採択された「ゲノム情報に応じたがん予防にかかる指針の策定と遺伝性腫瘍に関する医療・社会体制の整備および国民の理解と参画に関する研究」について、今年度はがん相談支援センター相談員にアンケート調査を実施して相談支援体制の構築を考えている。

⑩ がん・生殖医療部会

○2月13日にweb開催された第7回がん・生殖医療部会について報告があった。

- ・「岡山県小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」についてR5年申請実績の報告があった。R6.1.1時点で11件の申請があった。

- ・3か年の活動計画（PDCA サイクル評価）について、1年目は県全体の妊孕性温存のフロー図作成や啓発資材の作成、2年目は各施設でのフロー図作成・広報、医療者向けの資材作成、研修会開催等で周知を図った。3年目となる今年度は各施設でよりフローを浸透させるとともに、各診療科によって温度差がないかアンケート調査を実施し評価する計画である。
- ・県内のがん相談支援センターへの妊孕性温存に関する相談件数について、2017年度1件、2018年度1件、2019年度16件、2020年度9件と低調であったため、パンフレット配布、医療者向け研修会実施等で周知を図った結果、2021年度12件、2022年度104件、2023年度(12月まで)87件にまで増加した。
- ・県の協力のもと昨年度は拠点病院等7施設で妊孕性温存に関する研修会を開催した。施設によって温度差を感じたし、研修会に参加してくれるスタッフは興味を持っていただけていると思う。参加されていない(興味がない)医師もまだ多く、患者が取りこぼされていることが課題かと思うので、より細やかな啓発が必要かと思う。

(4) 地域がん診療連携拠点病院・診療病院・推進病院
報告事項なし

(5) その他

○岡山市より、R5.4.1～開始した「岡山市がん患者アピアランスサポート事業」においてR6.4.1～乳房補整具にも対象を拡大したと報告があった。助成対象者の条件をすべて満たす方が令和6年4月1日以降に購入した乳房補整具が対象で、ウィッグ、乳房補整具それぞれについて購入費用の2分の1の額を助成する。令和5年度には約270件のウィッグ購入費用助成申請があった。引き続き患者からの相談もよろしくお願ひしたい。

6 協議事項

○「岡山県がん診療連携協議会（作業部会）あり方検討委員会(仮称)」設置について相談があった。第4期がん対策推進計画が始まって2年目、令和7年には中間評価の議論が始まるという流れの中で、岡山県でもそろそろ作業部会の再編を考えなければならない時期に来ているかと考える。第4期で特に強調されているのは「都道府県協議会の機能強化」で、希少がんや特殊な治療法についての役割分担、感染症のまん延や災害等におけるBCP等が求められている。第1期では県内どこに住んでいても同じような治療が受けられるがん診療均てん化が重要視されたが、第4期では疾患によっては集中も必要で県内の診療状況を解析して「それぞれの特性に応じた診療提供体制」も必要とされ、拠点病院に求められている内容が変化（追加）してきている。2006年に発足した岡山県がん診療連携協議会は、各期の指定要件に応じる形で作業部会を設置してきて現在に至るが、希少がんや高齢者がん等について今回の見直しに対応できる体制が取れていないのが現状である。これから1年かけて方向性を検討していただき、作業部会を整理して新たな体制で協議会を進めていただきたいと考えている。人数に上限は設けていないので岡山県、及び各施設からぜひご参加をお願ひしたい。

7 その他

特になし

8 次回開催日

今回は、令和6年7～8月開催予定。

開催日が近くなったら日程調整を行う。

(対面開催予定、web開催とする場合もある)